

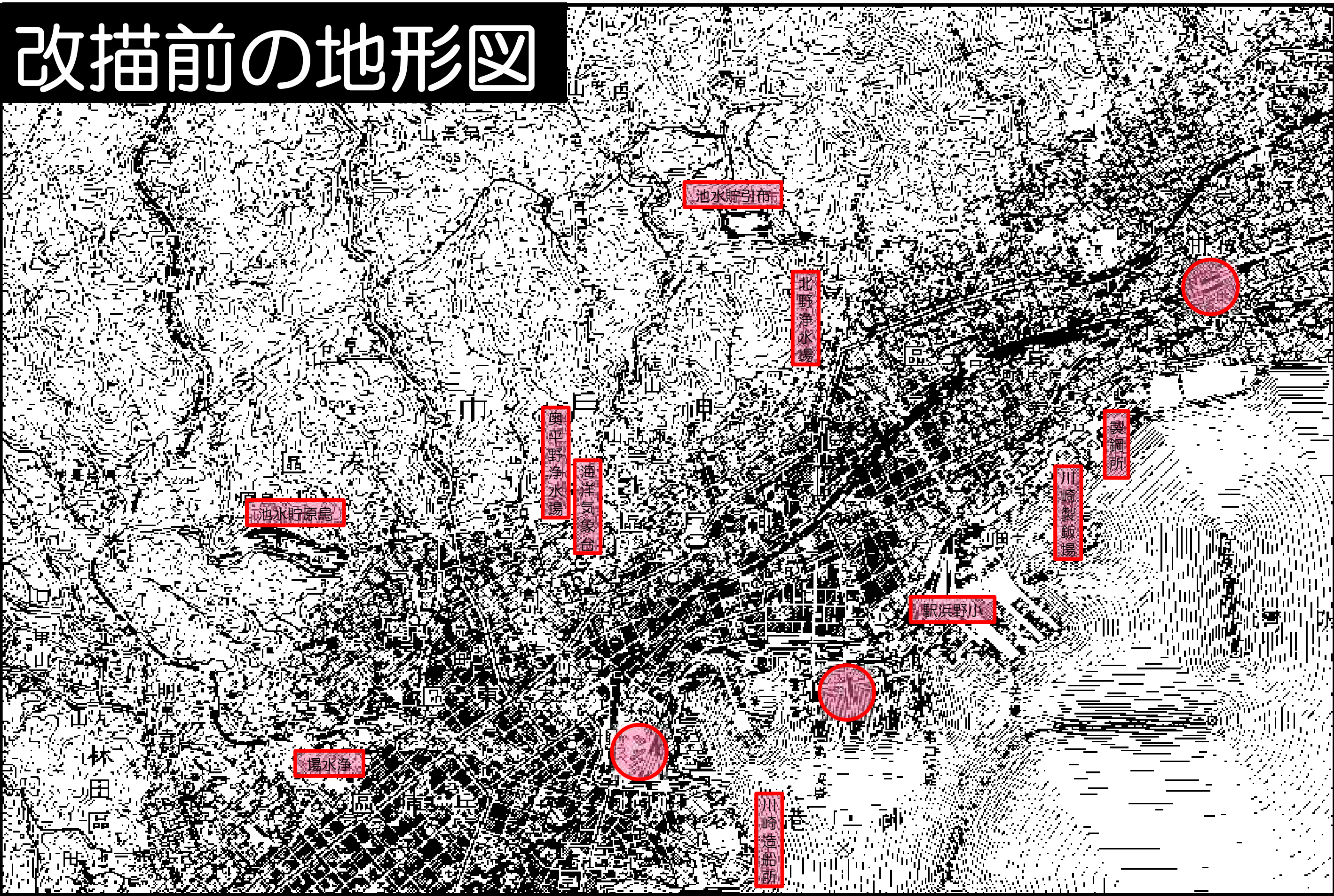
# 書き換えられた地図

昭和の初め頃から太平洋戦争の終結まで、地形図の右肩に「軍事機密」、「軍事秘密」、「秘」等の文字が表示されるとともに、一般に刊行された地図の中には、軍事上重要な施設や地域を偽装するための「改描」、あるいは図の一部を空白にしたり削除した上で発行されたものがありました。

## ■戦時改描

「昭和17年図式」には「国土防衛上の地図改描に伴い削除すべき」ものが明記されています。軍司令部や兵営・軍港など軍の施設、電信電話局、気象台・測候所、造船所などは削除、工場・発電所・倉庫のほか銀行・高塔・給水塔・採鉱地なども所要に応じて削除するとされています。

### 改描前の地形図



5万分1地形図「神戸（昭和10年修正 12年9月発行）」（部分拡大）

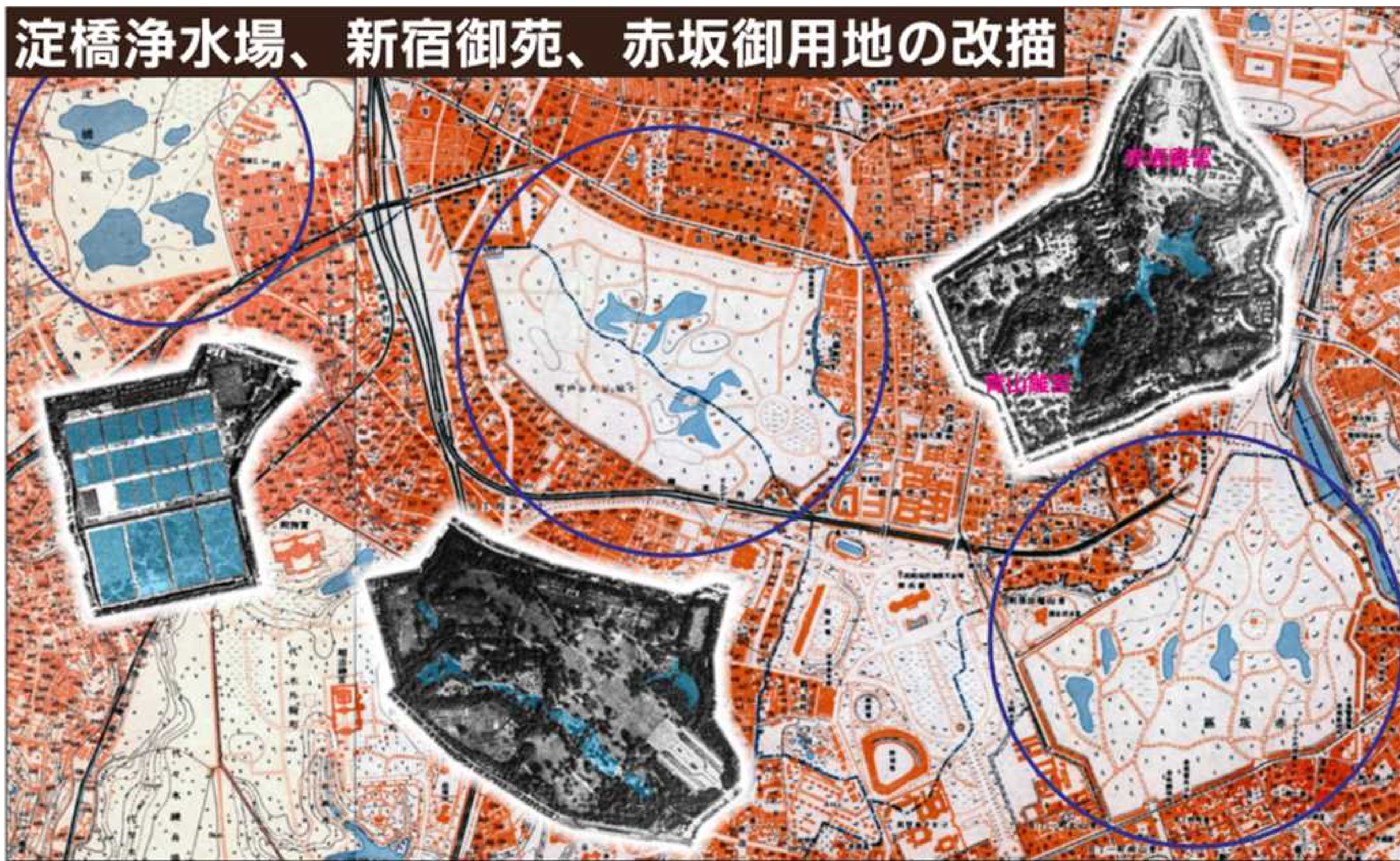
### 改描後の地形図原図



5万分1地形図「神戸（昭和13年～16年の間に作業）」（部分拡大）

※「改描」は縮尺が異なる地図でも、また、民間会社が発行した地図でも同じように施されています。

### 淀橋浄水場、新宿御苑、赤坂御用地の改描



1万分1地形図「中野（昭和15年発行）」、「四谷（昭和15年発行）」（部分拡大）  
写真は昭和19年陸軍撮影（水面着色）

## ■交通図

太平洋戦争中には地形図から等高線などによる地形表現を隠す一方で、地域の不便を緩和するために最小限の交通網だけを表示した「交通図」といわれる地図が作られました。この時期には地図の販売が停止されていたので、実際にはごく一部の関係者のみで使用されたと考えられます。

右の図は5万分1交通図「早岐」の製版原図の一部で、川棚町から西側は佐世保要塞地帯のため地形表現がなく、反対に東側は従来の地形表現が残っています。



5万分1交通図「早岐（昭和18年製版）」（部分拡大）

# 戦火をくぐりぬけた銅原版

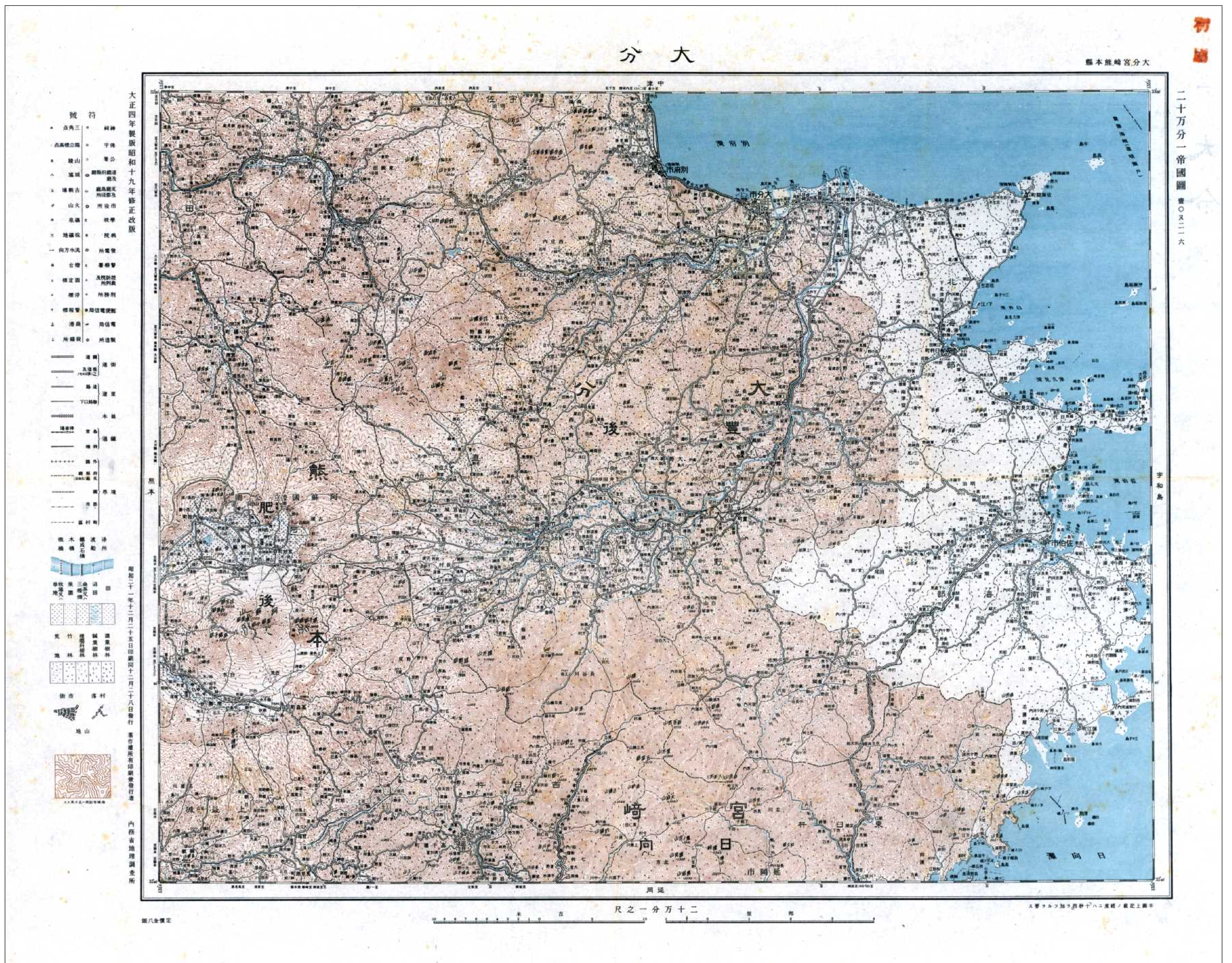
戦火を避けるため原版類の疎開も行われました。20万分1帝国図の銅原版も、梱包するために多摩川べりの倉庫から三宅坂庁舎の印刷工場に移され、廊下に並べられていましたが、昭和20年5月24日夜から25日にかけての空襲で、庁舎とともにそのほとんどが焼失してしまいました。

焼失を免れたのは、僅かに「名古屋」・「京都及大阪」・「岡山及丸亀」・「小倉(現：福岡)」・「大分」の5図葉だけでした。このうち「大分」は、くんせん(陰影)版を含む5色5枚が国土地理院にそろって残されています。他の図葉については、東京国立博物館に一部存在するものの、それ以外についての行方は不明です。

国土地理院には、20万分1以外では「5千分1東京中部(皇城)」、2万5千分1地形図や5万分1地形図など約120枚の銅原版が保存されています。



陸地測量部の焼跡  
(1947年11月米軍撮影)



20万分1帝国図「大分」 昭和19年修正改版 昭和21年12月28日発行（拡大複製）

この図は、焼け残った銅原版から戦後に再販されたものです。くんせん(陰影)は利用されていません。豊後水道に面した大分県沿岸地域は要塞地帯に指定されていたため、戦時改描で、等高線が銅原版の「曲線版」上で削除されていますが、戦後復興に資するため急的にそのまま印刷されています。

# 焼却処分から救われた成果

## ■重要書類の焼却命令

日本政府と軍はポツダム宣言の受諾を決定した後、直ちに、関係省庁や軍の全ての機関に対して、重要書類の焼却を通達していました。陸軍では8月15日付で参謀総長名の「陸軍秘密書類焼却二関スル件」が通達され、陸地測量部においては玉音放送終了後、疎開先の波田国民学校や梓国民学校の校庭に防空壕用に掘った穴の中で地図類を次々と燃やしていきました。

## ■突然の焼却作業変更命令

地図類が燃やされていくのを目の当たりにした渡邊正参謀は、「日本の復興のため将来必要となる地図まで焼却することはない」と考え、「陸地測量部処理要綱案」の具申とともに、「地図の保存」を進言しました。8月19日、焼却の変更命令となる「情勢の転変二伴フ作戦用地図処理要領ノ件通牒」が出され、残すものは残すということになりました。本土決戦用の地図など優先的に燃やされたためほとんど残らなかったものもありますが、陸地測量部にあった少なくない測量成果や地図類といった貴重な資料が失われることは避けられました。

### 陸地測量部、民間印刷会社に対する具体的な指示

#### 【陸地測量部】

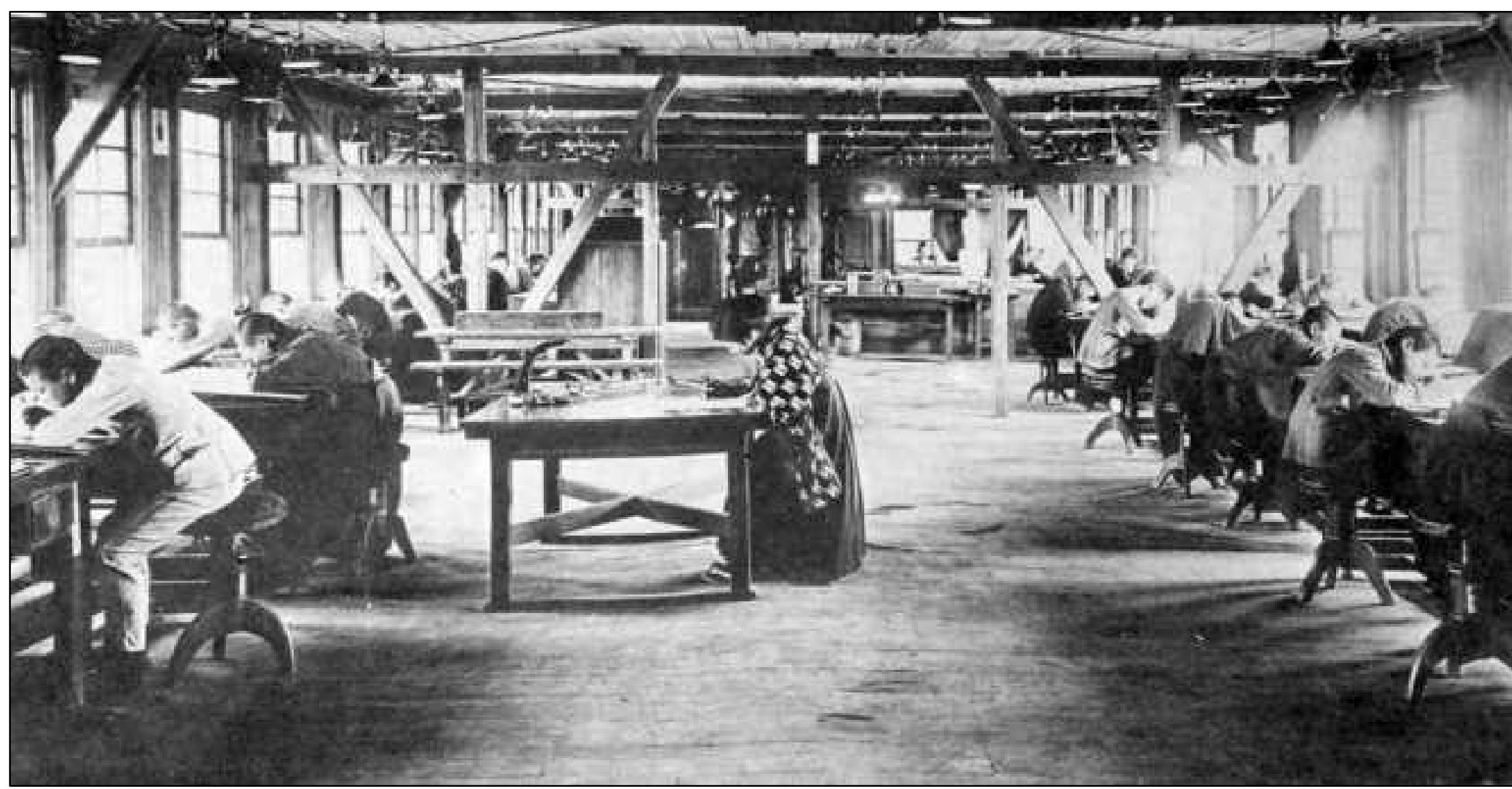
- イ. 原図、初刷、三角点成果表は成るべく保管す
- ロ. 原版はそのまま残置す 但し軍事秘密たる2万、1万、5千分1のものは焼却または破壊す
- ハ. 印刷機、資材等は残置す 但し一部の「レンズ」は保管す
- ニ. 資材のうち所要なものは職員に貸与支給す

#### 【民間印刷会社】

民間印刷会社において印刷せる5万分1地形図及20万分1帝国図は印刷会社に貸与す  
用紙、薬品、亜鉛板等は陸測主任者と経理上の協議（例えば印刷費を当該資材にて現品払いするが如き）の上印刷会社に交付す

## ■陸地測量部の製図・製版・印刷作業風景

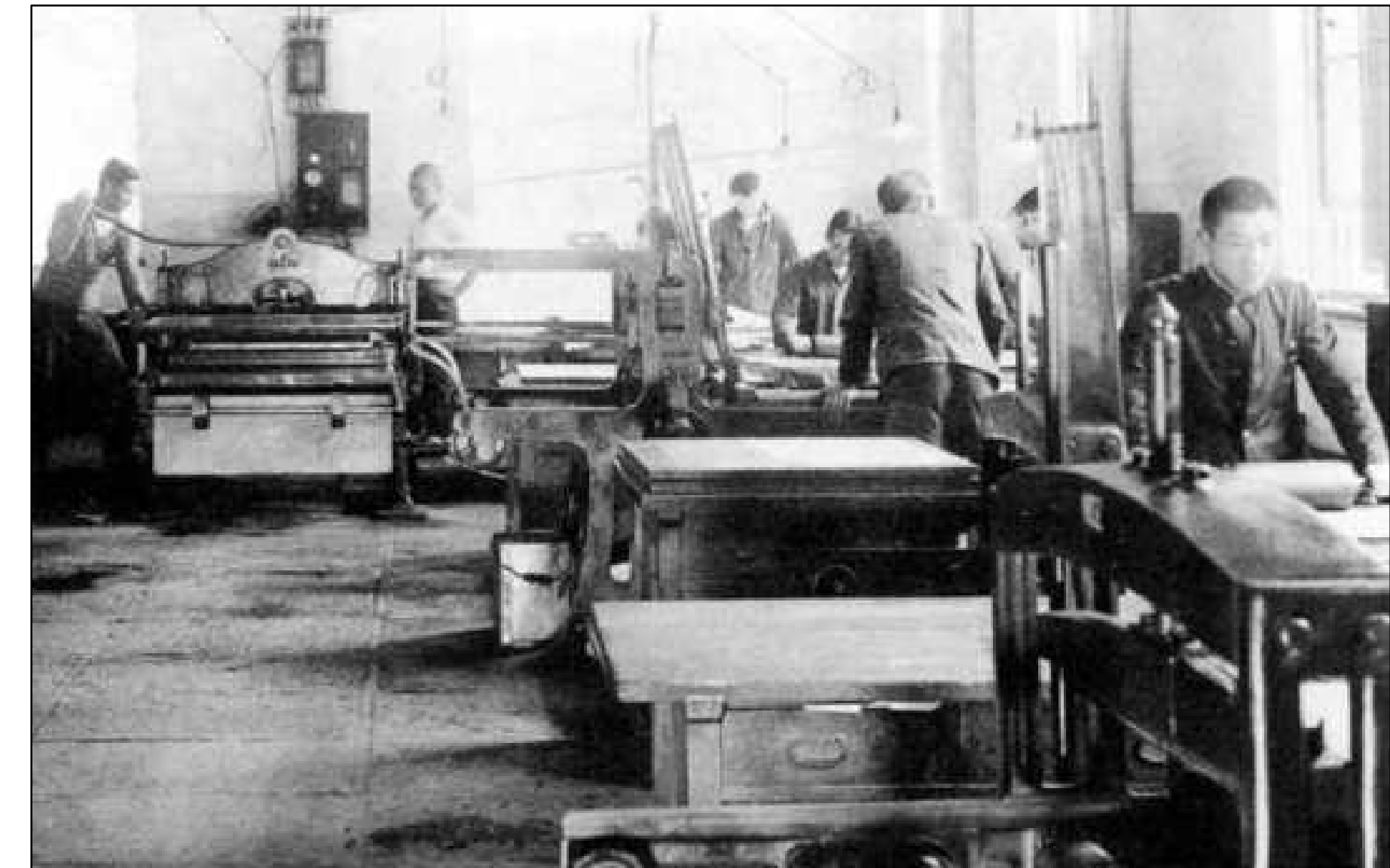
出典：陸地測量部写真帖



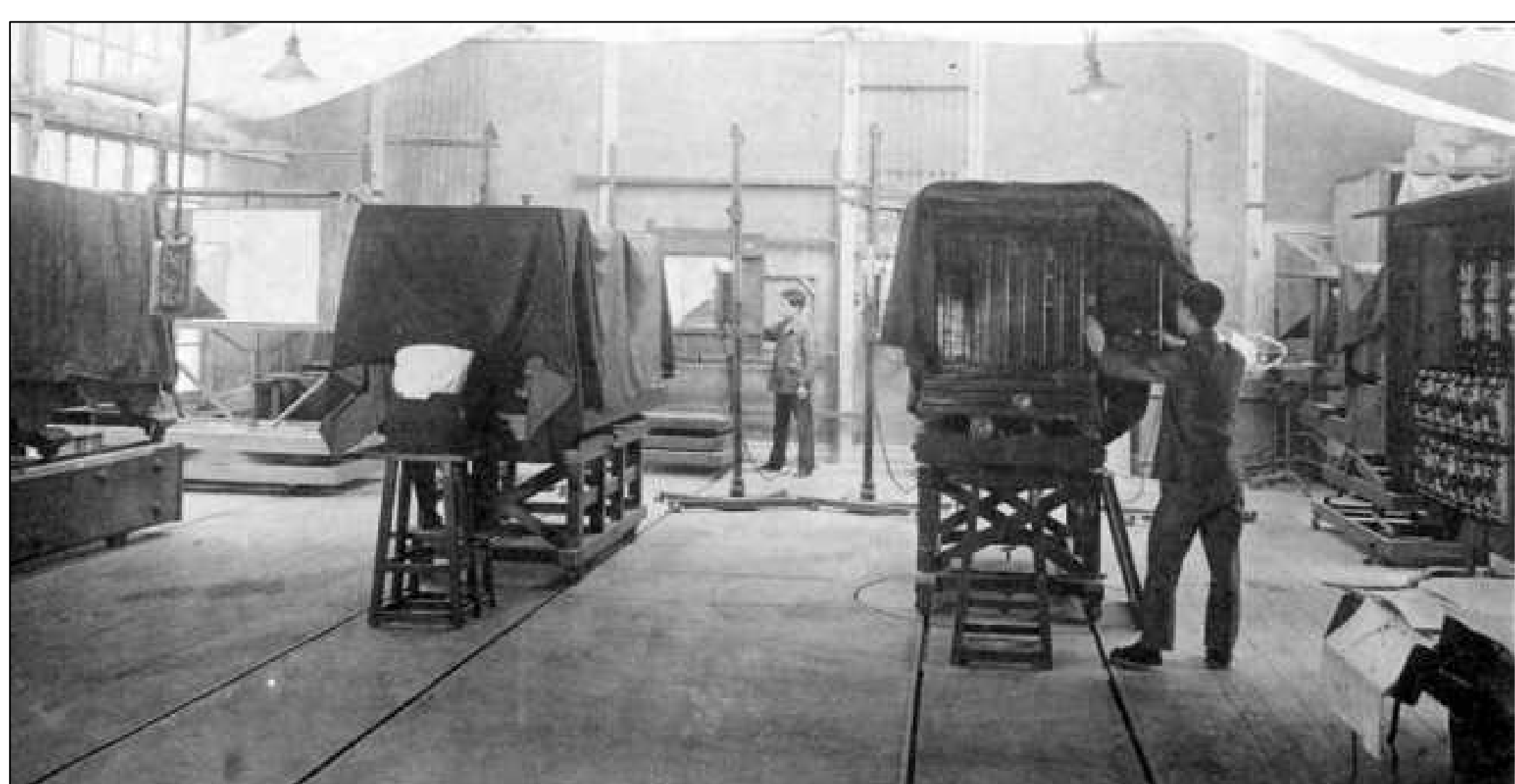
清絵作業



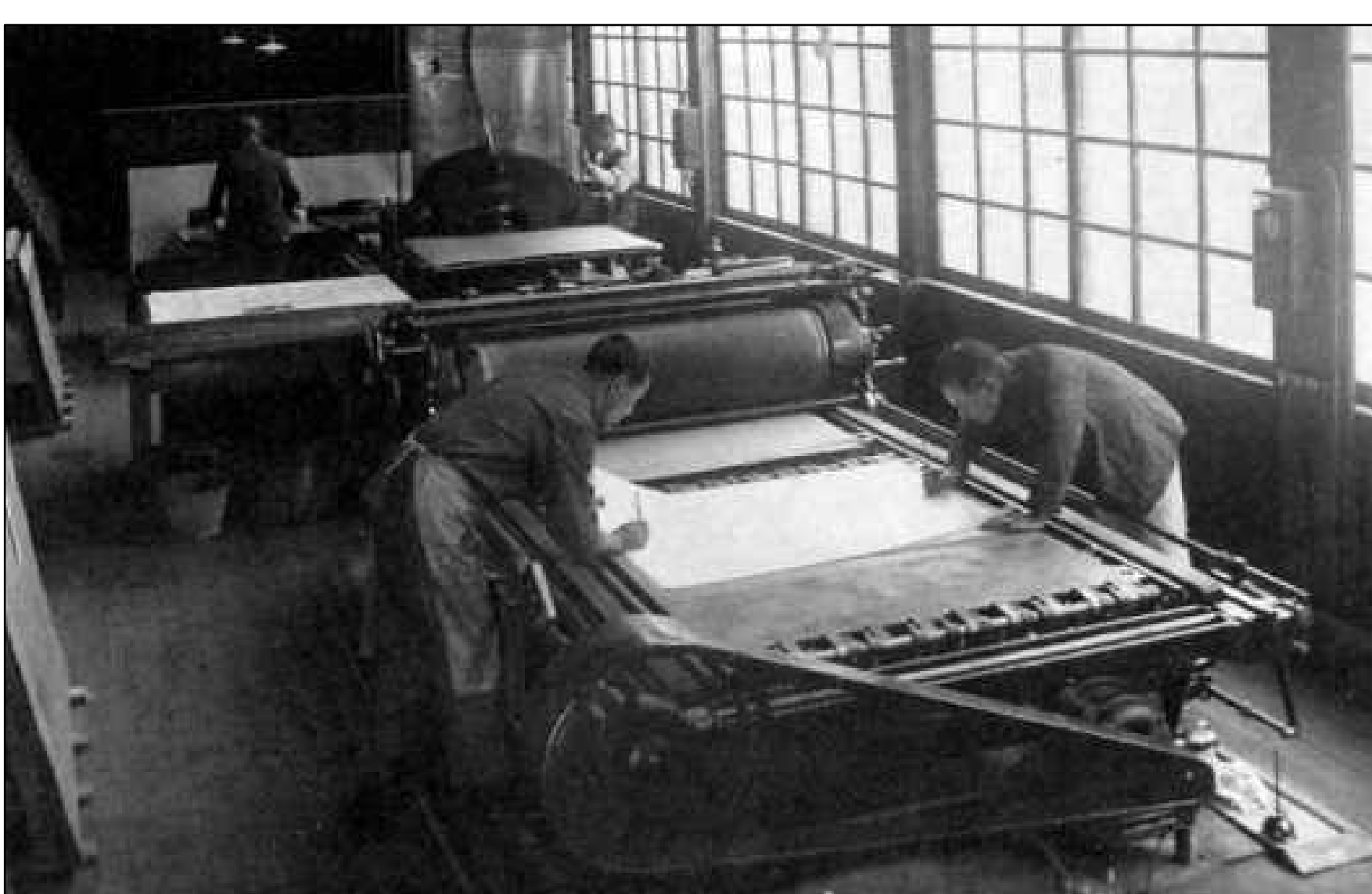
銅版彫刻作業



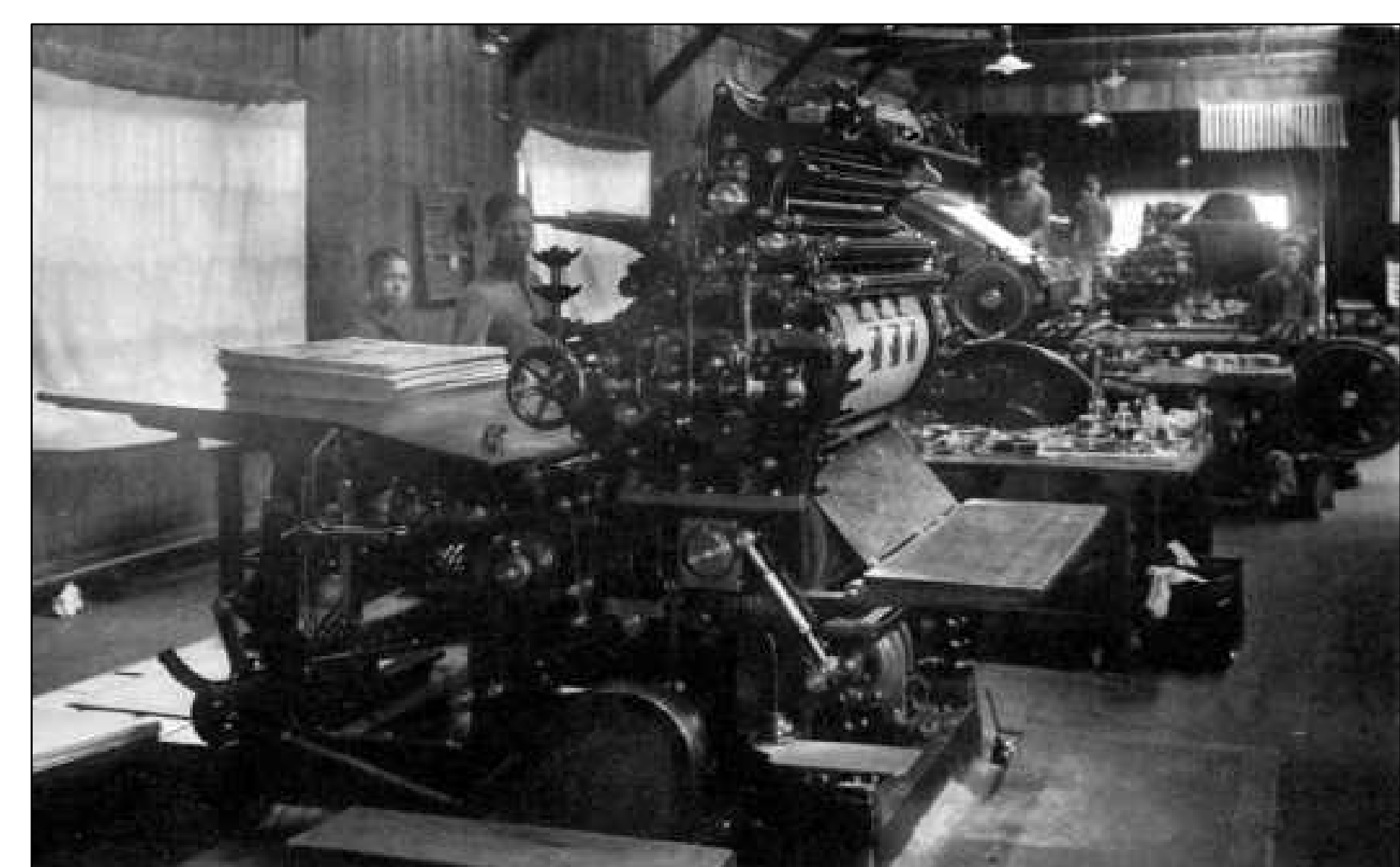
亜鉛版製版作業



湿版写真撮影作業



オフセット製版機による校正刷り作業



オフセット輪転機による印刷作業

# 地図の複製再販

地理調査所は、戦後復興のため空襲による焼失や終戦時の焼却処分で失われた地図の複製や、戦時中に一般販売を中止していた地図の再販を開始しました。まず、20万分1 帝国図が発行され、続いて昭和23年からは5万分1 地形図の応急修正測量が始まりました。

## ■20万分1 帝国図の複製再販

20万分1 帝国図は、終戦間際の空襲でほとんどの原版を失ってしまいました。かろうじて焼失を免れた5図葉は銅原版から複製し、終戦直前、応急的に修正を行った5図葉(「東京」、「水戸」、「佐倉」、「大多喜」、「横須賀」)は応急修正原図から3色刷りで複製されました。残りは最終試刷からコロタイプ印刷法や写真製版法により1色刷り又は3色刷りで複製されました。

【コロタイプ印刷】：ゼラチンをガラス板に塗布して乾燥させ、ネガフィルムと密着して露光し、これを版として印刷する方法です。連続階調(グレースケール)に近い表現が得られるので、写真の複製に特に優れており、帝国図のくんせん(陰影)の濃淡も再現されています。複製は、「京都便利堂」の請負印刷作業で行い刊行されました。印刷図には、「**便**」が表示されています。



【写真製版による一色刷り】：コロタイプ印刷は、ガラス原版を使うため印刷費が高額となり、また大量の印刷が困難だったため、写真製版による1色図の複製が行われました。ところが、これも多色図をそのまま1色図としたので、画線の重複による不鮮明さは免れませんでした。このため、写真製版で多色化する方法(最終試刷図を撮影したネガガラス版上で3色に分版する)が考案され、地形のくんせん表現を除いて3色図として刊行されました。

## ■5万分1 地形図の応急修正

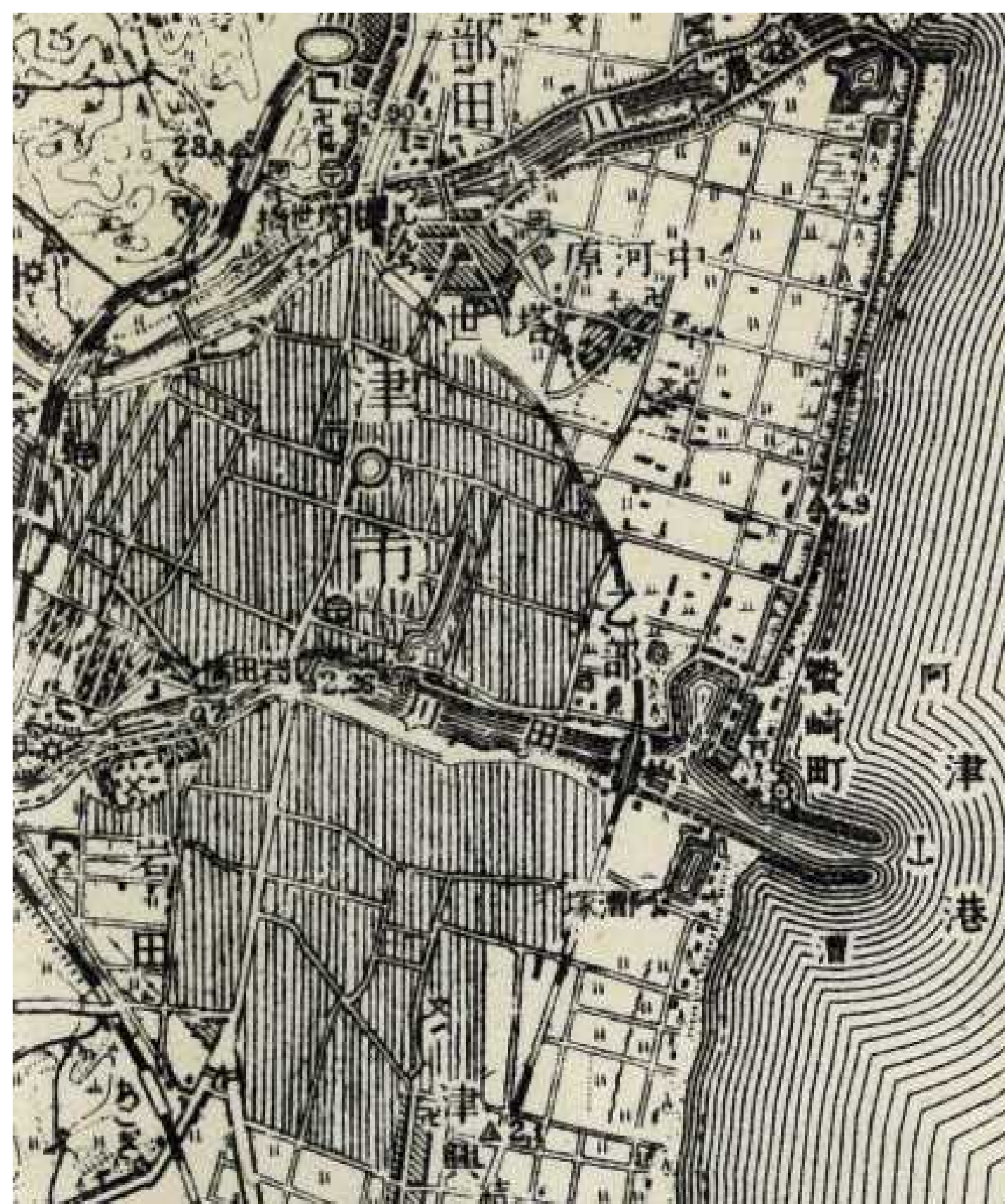
大正時代の終わりに全国整備が完了した5万分1 地形図は、「陸測の5万」として長く使用されていましたが、昭和に入り戦時体制が拡大してくると、地図作成の主力は外邦に向けられ、国内の図の修正はほとんど行われませんでした。戦後の復興に伴って、地形図の必要性が高まったため、昭和23年から5年計画で応急修正測量作業が開始されました。作業には、戦後間もなく米軍が撮影した空中写真が使用されました。作成された地形図の中には、戦災の被害にあった都市の被災地域を表示したものもあります。

戦災地を赤色で表示



四日市(昭和25年応急修正)(部分拡大)

戦災地を縦ハッチで表示



津東部(昭和24年応急修正)(部分拡大)

焼失した建物密集地を白抜き(空き地)で表示



大阪東北部(昭和7年要部修正)(部分拡大)



大阪東北部(昭和25年応急修正)(部分拡大)

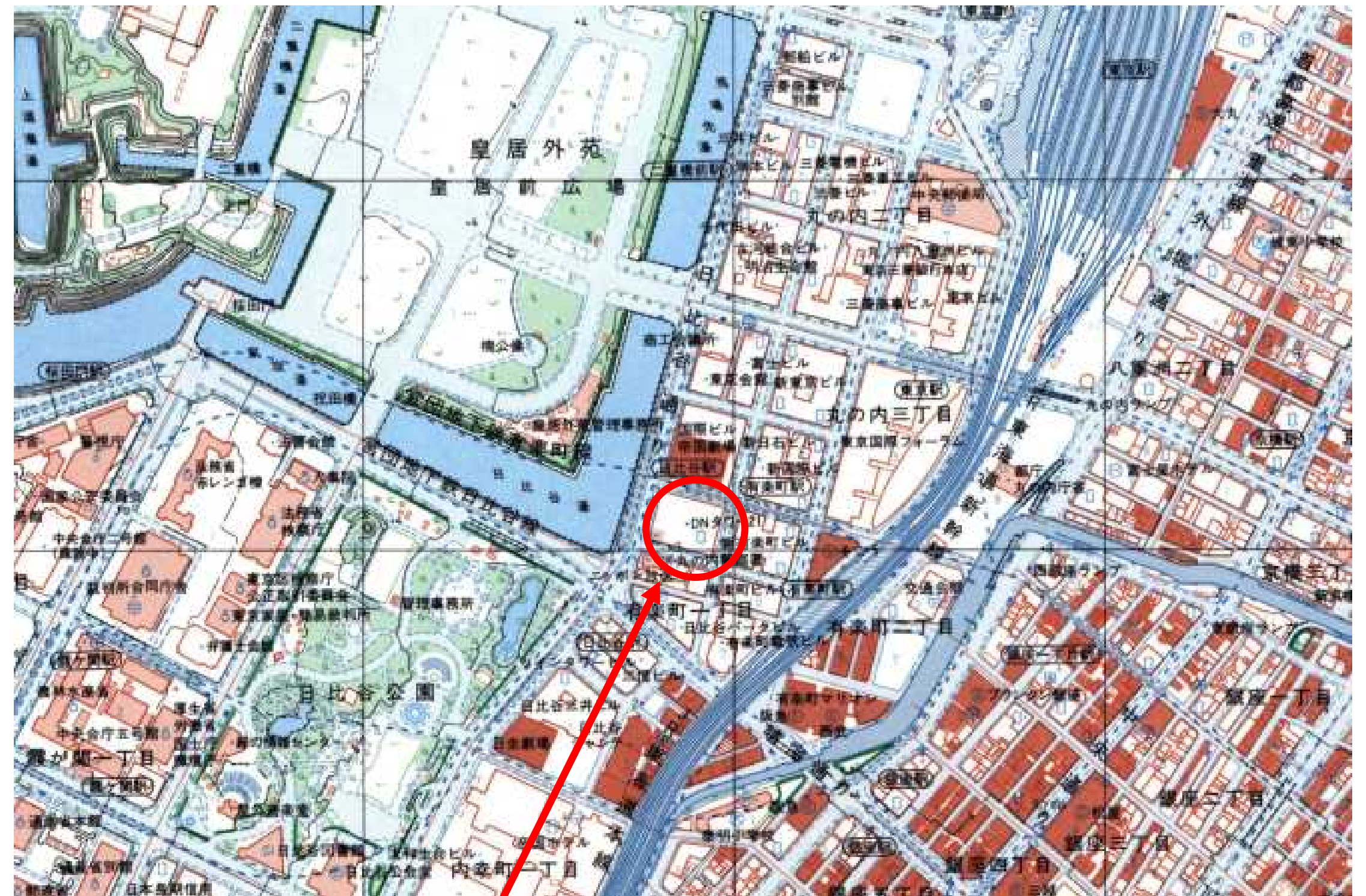
# GHQ指令による作業と成果

戦後日本を軍事占領下に置いた「連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）」は、軍隊の解散、財閥解体、農地解放、政教分離など政治・経済・教育の民主化を図る指令を次々と発しました。一方で、ラジオ・新聞・雑誌などを厳しく取り締り、占領軍批判につながる言動はもとより、戦争被害を知らせるような出版物も統制されました。もちろん、地理調査所や民間地図会社が発行する地図はGHQの検閲対象とされ、その連絡調整のため、地理調査所東京支所も開設されました。



GHQ本部（第一生命館）

渡邊正氏資料



第一生命ビル（DNタワー21）

## ■地理調査所への作業指令

GHQは占領政策上、日本の復興と統治の必要性から地理調査所に対し、以下の作業指令を次々と発しました。地理調査所は地図再販作業と並行して次のような一連の作業を行いました。

- 日本測地基準点標石調査及び復旧に関する件（昭和21年1月）
- 全国地名調査と地図資料調査に関する件（昭和21年2月）
- 日本土地利用図作製の件（昭和21年3月）
- 航空写真上に測量基準点を標示する件（昭和21年5月）
- 地図複製に関する件（昭和22年2月）
- 日本本土の鉄道及び高圧線の調査に関する件（昭和22年6月）
- 日本本土大梯尺測図用地図資料調査に関する件（昭和22年9月）
- 東京横浜地区半厳密集成図作製に関する件（昭和22年10月）

指令された作業について地理調査所は、単に連合軍側の要求事項に対し受動的な任務とせず、地理調査所として当然これからの国土経営に資することであり、更に土地測量に関する諸問題の調査研究業務との国家的見地から積極的に推進していくという姿勢で実施しました。

## ■戦後の混乱、物資や技術者の不足……困難な中での作業

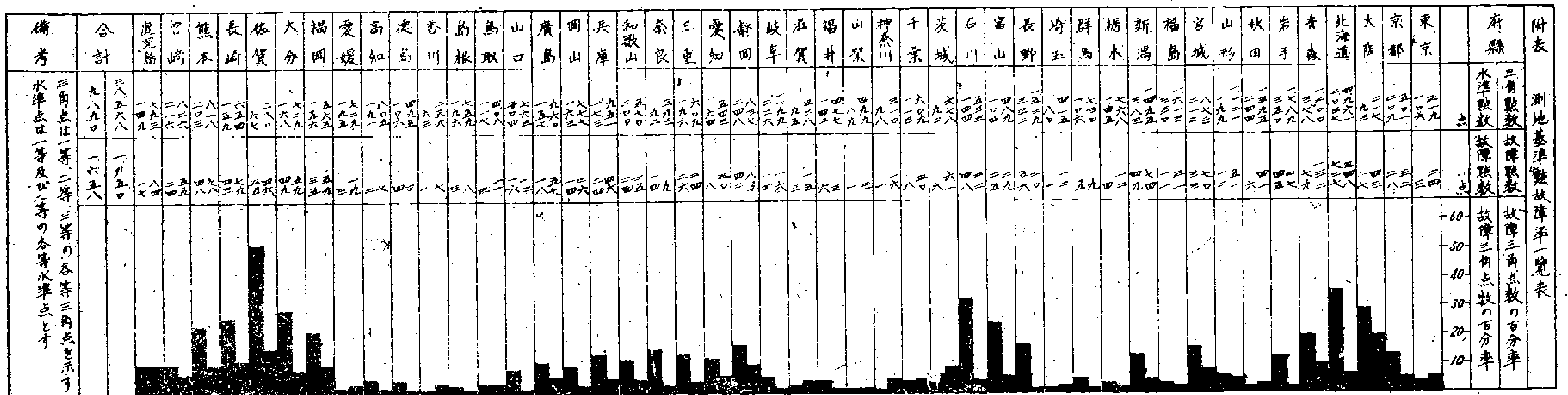
当時の日本国内は敗戦による混乱期で、民心の不安、物資の不足、インフレーションの進行等の悪条件に加え、技術者の不足が悩みでした。さらに、仕事の性質上ほとんどが野外作業で、なおかつ全国的に展開する膨大な作業でもあったため、物資の統制配給の時代に食料や現地で必要な消耗品等を確保するのが一苦労でした。

昭和23年後半にはGHQから軍用ジープの貸与や燃料の現物支給、連合軍専用列車に作業関係者が自由乗車できるパスポートの発行などの便宜が図られました。

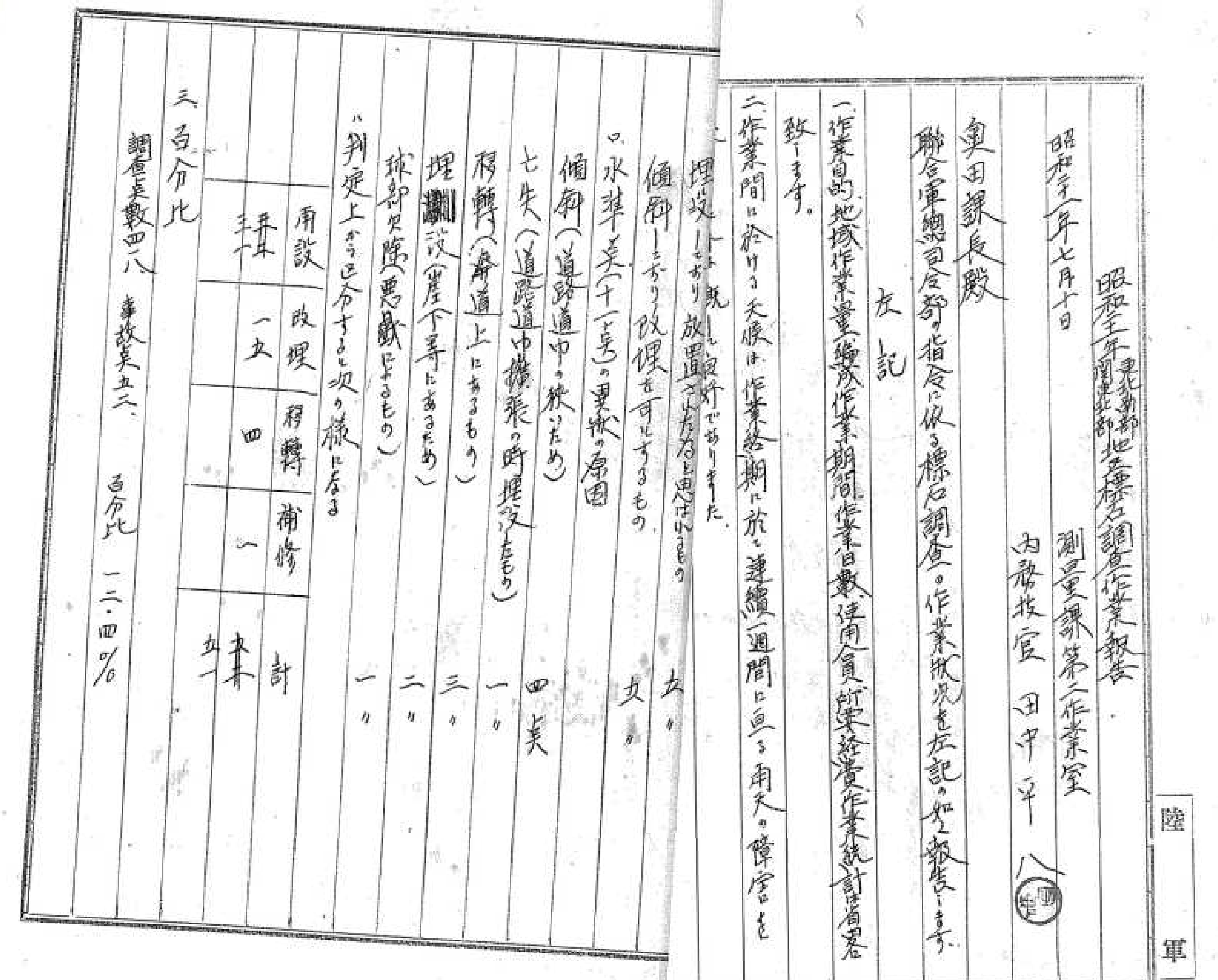
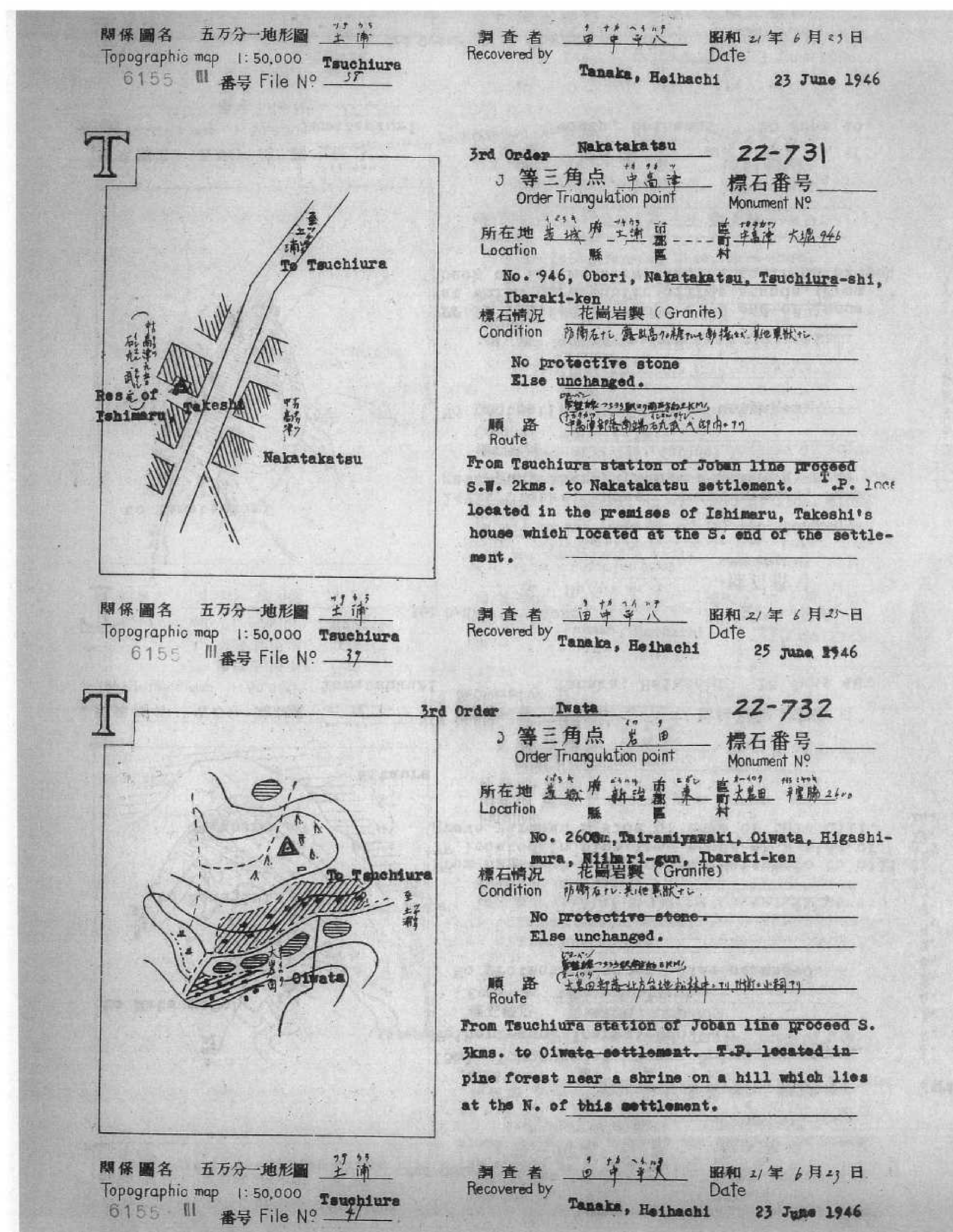
こうして行った作業の成果は、日本側にも使用が許されたので、戦後復興等のために役立てられました。

# 測地基準点標石調査及び復旧

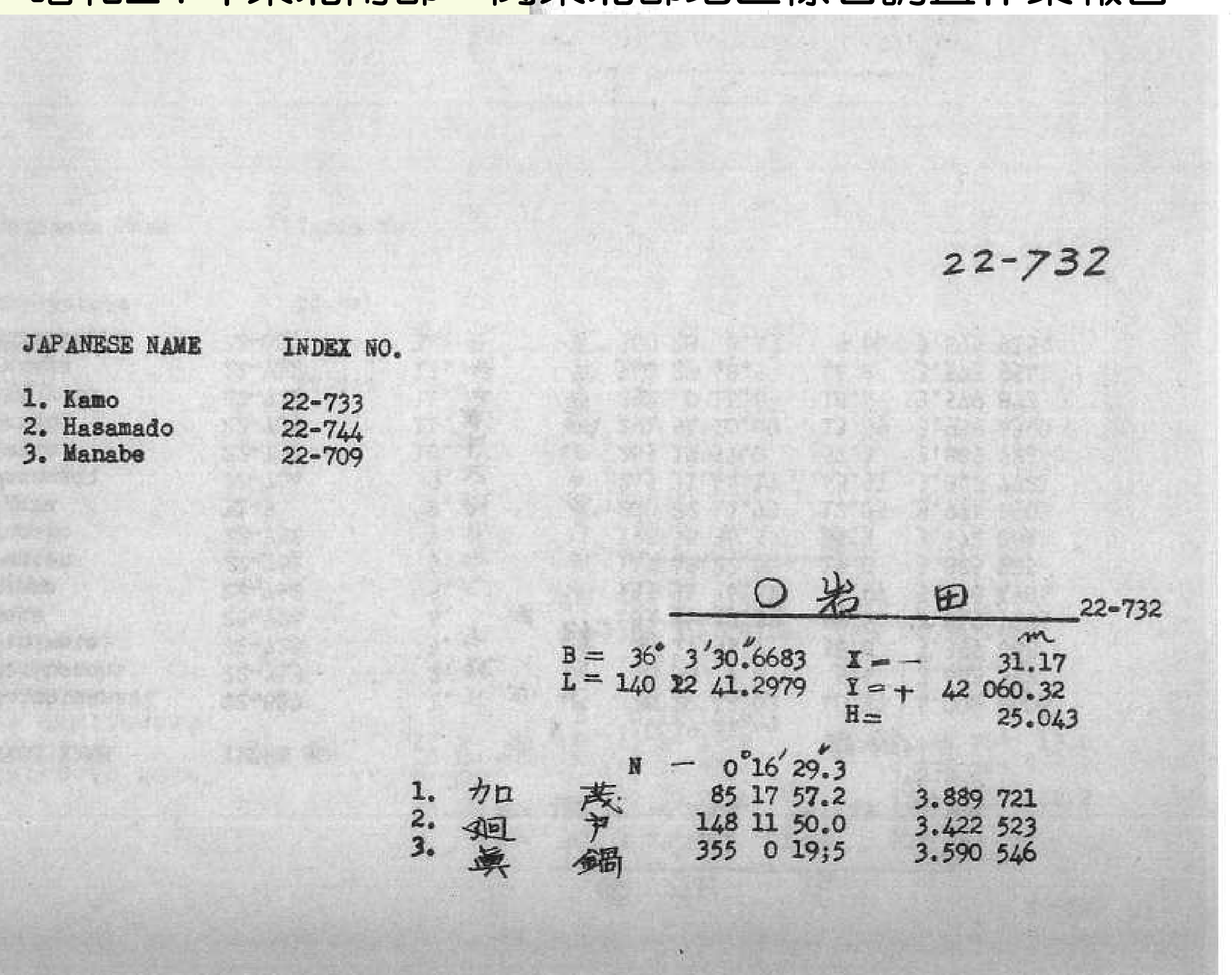
最初の作業は、昭和21年1月に命令された「日本測地基準点標石調査及び復旧に関する件」です。この標石調査は、東京、名古屋地区から着手し、昭和23年3月末まで実施されました。調査した三角点、水準点の総数は48,000点余りに及びました。調査結果は「GEODETIC CONTROL BULLETIN」としてまとめられました。



水戸、土浦地区を担当した技官によれば、調査点数418点中異常点は52点で、12.4%の故障率であったと報告しています。



昭和21年東北南部・関東北部地区標石調査作業報告



昭和23年10月、この成果に基づいて「郡市町村名便覧」が刊行されました。市町村の廃置分合が行われた今日では、当時の旧町村名を知る最良の資料となっています。

# 地名調査表

茨城県新治郡上大津村（現土浦市）

| 6155- <sup>11</sup> / <sub>111</sub> (46-21) |                                  | Kami-otsu-mura       |                               |                      |                                   |               |
|----------------------------------------------|----------------------------------|----------------------|-------------------------------|----------------------|-----------------------------------|---------------|
| 番号<br>Key No.                                | 地図上/地名<br>Name on Map<br>(Kanji) | 読み方(片假名)<br>Katakana | 地名/変更<br>Correction<br>if any | 地名/種類<br>Description | *標準ローマ字<br>Standardized<br>Romaji | 備考<br>Remarks |
| 1                                            | 道休新田                             | ドキウシンデン              |                               | 字                    | Dōkyū-shinden(A)                  |               |
| 2                                            | 神立                               | カンダツ                 |                               | 大字                   | Kandatsu(OA)                      |               |
| 3                                            | 神立本郷                             | カンダツホンゴ              |                               | 字                    | Kandatsu-hongō(A)                 |               |
| 4                                            | 鶴沼                               | ツルヌマ                 |                               | 沼                    | Tsuru-numa                        |               |
| 5                                            | 上大津村                             | カミオツムラ               |                               | 村名                   | Kami-ōtsu-mura                    |               |
| 6                                            | 沼新田                              | ヌマシンデン               |                               | 字                    | Numa-shinden(A)                   |               |
| 7                                            | 白鳥                               | シロトリ                 |                               | 大字                   | Shirotori(OA)                     |               |
| 8                                            | 菅谷                               | スゲノヤ                 |                               | 大字                   | Sugenoya(OA)                      |               |
| 9                                            | 手野                               | テノ                   |                               | 大字                   | Teno(OA)                          |               |
| 10                                           | 石田                               | イシダ                  |                               | 字                    | Ishida(A)                         |               |
| 11                                           | 田村                               | タムラ                  |                               | 字                    | Tamura(A)                         |               |
| 12                                           | 高谷                               | コーヤ                  |                               | 字                    | Kōya(A)                           |               |
| 13                                           | 沖宿                               | オキジク                 |                               | 字                    | Okijiku(OA)                       |               |
| 14                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| 15                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| 16                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| 17                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| 18                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| 19                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| 20                                           |                                  |                      |                               |                      |                                   |               |
| (1)                                          | 折戸                               | オリト                  |                               | 字                    | Orito(A)                          |               |

新地名  
New Names

※欄へ記入シナイ事

※欄へ記入シナイ事

# 土地利用図作製と国土実態図刊行

地理調査所はGHQによる「日本土地利用図作製」の指令作業（昭和21年3月）を行うとともに、その成果を踏まえて、昭和22年（1947年）から昭和34年（1959年）にかけて、8種類の80万分1 国土実態図を刊行しています。刊行の主目的は、これらの諸図を各種の調査や計画の基礎資料として、その方面の実務に携わる人々に提供することにありましたが、このような地図が国家機関から出されたことの意義は大きく、昭和52年（1977年）に刊行された「日本国勢地図帳（ナショナルアトラス日本）」のさきがけとなるものでした。

国土実態図の特徴は、各図とも80万分1 の縮尺に統一されていること、また地形・河川・鉄道・主要道路・市町村界等の共通する同一の基図を用いていることです。各主題はそれぞれ、北から第1図葉、第2図葉、第3図葉に分かれ、四六判3枚1組で全て多色刷りです。

【土地利用図】 11色刷 昭和22年刊行 昭和25年修正版

この土地利用図は、昭和21年3月に「日本土地利用図作製の件」としてGHQから指令された作業成果を日本語版に改めたものです。一毛作田・二毛作田・普通畑・桑畑・茶畑・果樹園・森林・牧場・荒地・湿地・塩田の分布が色別に示されています。

【土地利用田畑版】 6色刷 昭和23年刊行

前項の土地利用図から、一毛作田・二毛作田・普通畑を抜粋し、その分布を表示したものです。

【電力図】 7色刷 昭和24年刊行 昭和26年修正版

水力・火力別発電能力、送電線の経路、変電所・測候所等を図示したものです。

【労働人口と都市機能】 12色刷 昭和25年刊行

昭和22年10月1日の臨時国勢調査の市町村別統計による村落地域の職業別人口分布と、労働人口の構成による都市の機能を示し、都市は標準型・工業・商業・交通業・公務自由業・鉱山・水産、その他の都市に分けています。

【農業図（現金収入より見た地域的差異と市町村別特色）】 12色刷 昭和28年刊行

現金収入源を米・麦・雑穀・芋類・蔬菜(そさい・やさいと同義)・果樹・園芸・工芸・養畜・養蚕、その他雑収入に分け、また自給・入植を示し、商品化作物の生産と農業経営などの農村の特色を市町村別に示したものです。

【交通図】 8色刷 昭和28年刊行

主要自動車道路・バス道路・鉄道・航路、各路線の運行回数、最寄駅からの等時間線を示したものです。

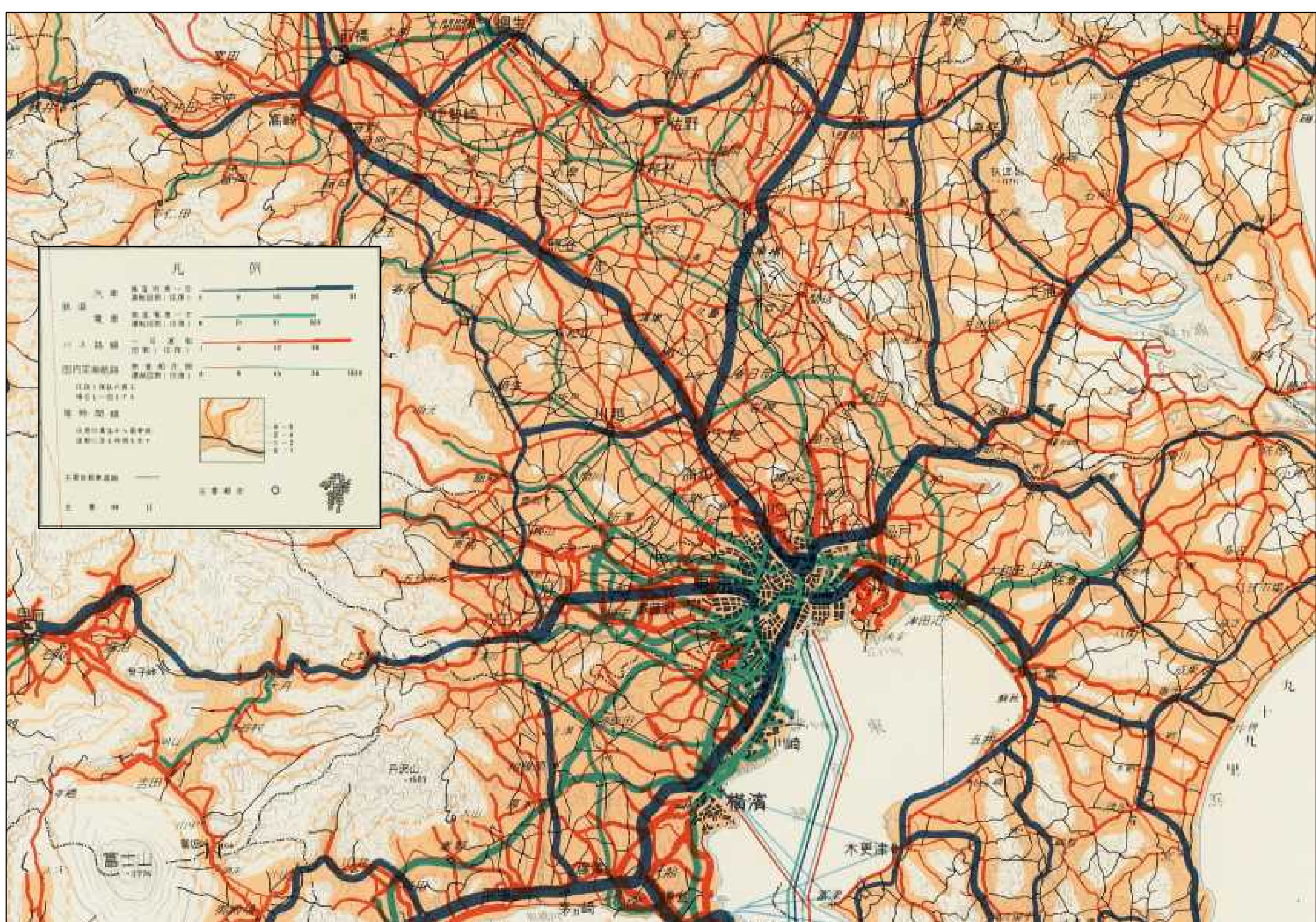
【人口密度図】 6色刷 昭和31年刊行

昭和25年国勢調査による市町村別人口密度・人口分布が表示され、分図として明治前期の人口密度を示しています。

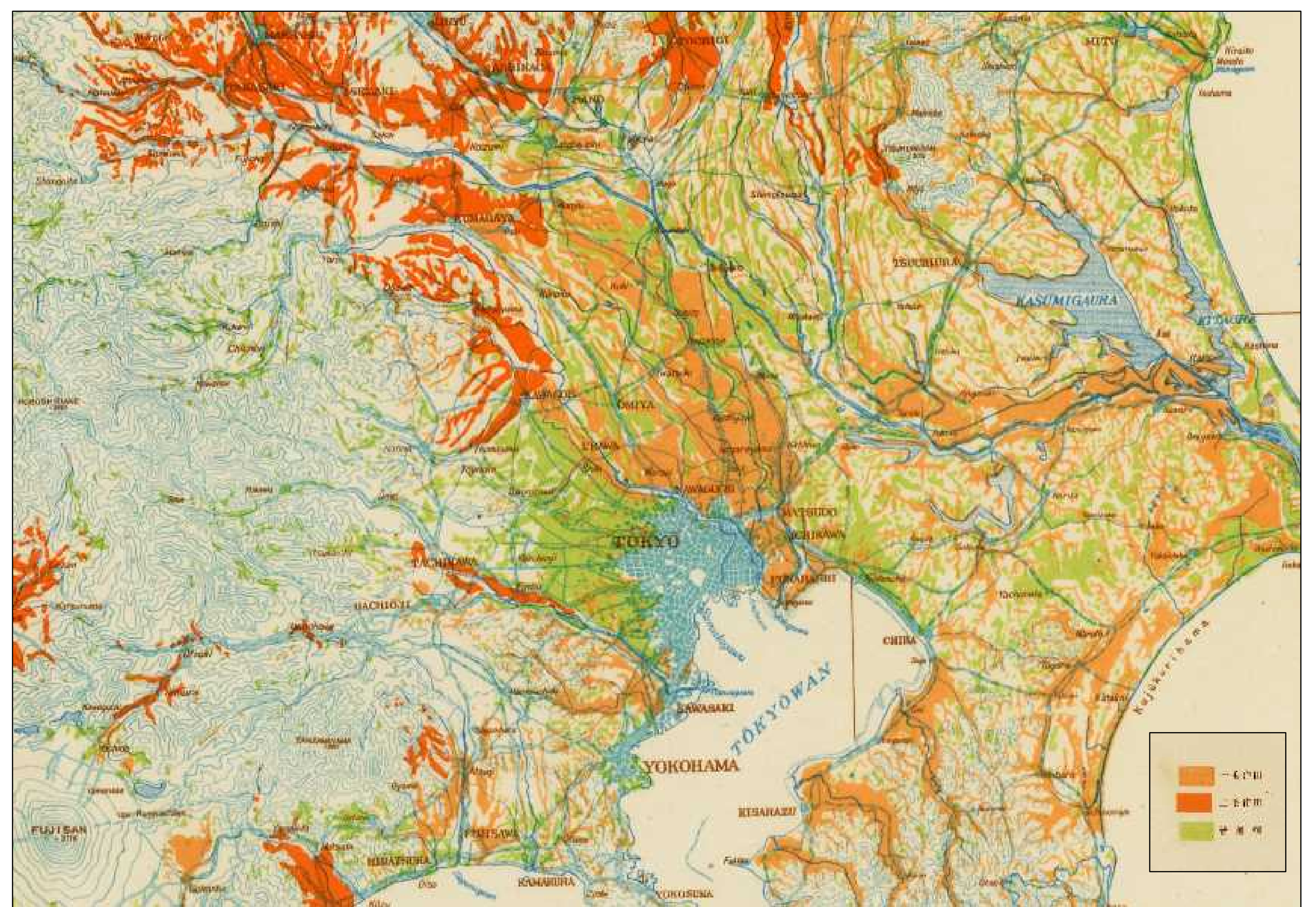
【日本の地勢】 2色刷 昭和33年刊行

俯角45°、高さの強調約3倍の斜景図様式により地勢を大観した図です。

このほかに、刊行されませんでした。原図だけ作成されたものとして「地形分類（地形面の成因・性質・構造等により斜面・カルスト・熔岩流・泥流・台地・扇状地・三角洲・泥炭地・砂丘・崩壊地・氷蝕形・火山性地形・非火山性地形等に分類）」があります。



80万分1 国土実態図「交通図」（部分拡大）



80万分1 国土実態図「田畑分布（英語版）」（部分拡大）